

校訓
 明 信 覇
 朗 念 気



創刊号

発行 県立富士宮北高等学校同窓会
 北嶺会
 編集 北嶺会広報部
 部長 井出元一



会報発行に当り

北嶺会会長 今村 堯



県立富士宮北高等学校同窓会北嶺会が、この度会報第一号を発行されるに当り心よりお慶びを申し上げます。

本校は昭和十三年四月、郷土の生んだ偉大な先覚者望月軍四郎先生の御遺志である岳南地区及其の周辺地域の産業文化興隆の担手として有為な人材の育成を建学の大神として、覇気、信念、明朗を座右の銘とし世界一の麗峯富士山のふもと、十二万平方メートルの広大な敷地をもつ将に日本一の環境のこの悠大な自然の道場のもと智徳、体の研修練磨の修学が出来た

事の幸せを感じずには居られませぬ。時に今、戦後の高度成長の歪みとして、特に学校教育に大きな弊害を生じている現在、真の教育である習育に偏らない人間性豊かな人格形成の道場として、母校の持つ環境は、誠に恵まれていると言ふ可であり、特に最近の母校生徒の野球、相撲、陸上……等の体育面において、県下にその名を高らしめている事に、先輩として心より喝采を送りたいと思います。

部の主たる事業目的として、組織の確立を計り同窓生相互の有機的連絡の出来る体制作りであります。そして各地域、各事業所及各後援会より夫々代表の選出を願ひこの方々が幹事として今後の運営を計り、又弘報、後援会、組織の三部を置き、夫に専門的活動を企画する予定であります。そして此度、井出元一副会長を中心とする弘報部の諸兄によつて弘報第一号が発行されます事は、特に時宜を得た企画と申すべきであり、そしてこの弘報が、母校と卒業生との間のパイプ役となり、恩師や旧友の近況や、又母校や在校生の状況等を知るコミュニケーションの媒体となる事を願うものであります。やがて回を重ねるに従ひ、意見なり体験なりを弘報に盛り込みに充実にしたものに成長される様期待いたします。

北嶺会の皆さんへ

学校長 川口 泰之



昭和五十年度を迎え、本校も四月以来、新しい学校編制を終え、漸く教育活動が軌道にのってまいりました。ご案内のように、従来普通科、商業科ともに四学級でありましたが、富士地区の高校進学率の上昇に伴い、昭和四十九年度より、普通科一学級の増があつて本年度は第一、二学年が九学級、第三学年が八学級となり、生徒総数は一六〇名となりました。学級増に伴う困難点として、人的、物的諸条件の充実整備があります。が地域社会の要請にこたえて、教育の質的向上を目指して、全職員が

努力を重ねております。過去三年間の卒業生の進路状況をみましても大学進学に大きな成果をあげ、それが定着しつつあります。また就職面においても、全国的なスタグフレーションの中で、本校では幸い求人数が求職数を上回り、所期の成果をあげております。

学校としては、本年度の教育目標として、①「身につく学習」をめざして、基礎的知識、技能をしっかりと身につけ、その上に確実な学力を培う、②「学級づくり」を基盤として、基本的な生活ルールを守り、自主性、自律性を育てる、③体育スポーツの振興をはかるとともに、学校生活のあらゆる分野で安全教育を徹底する、④校内の環境美化に努め、生徒の自発的奉仕作業を奨励する。以上のような目標を掲げて教育活動を展開して

いきたいと思います。さて本校同窓会については、創立以来三十八年にわたつて、陰に陽に本校の歩みを見守つていただき、物心両面にわたる温かいご愛護をいただいております。八千余名に及ぶ卒業生の方々が、今日経済界、金融界、行政界等において、重要な地位を占められ、自らの発展を期するとともに、後輩の育成に並々ならぬご愛顧をいただいております。

会窓 支部だより

北嶺会の動き

この一年間、北嶺会は総会の開催、会報の発行、役員改選、規約の改正、北嶺会と名称変更、幹事会の開催等大変活発な活動をして来ました。次に、北嶺会の一年間の活動ぶりを記してみよう。

昭49・7・24 第一回同窓会役員改選、この役員改選は総会を開催するかどうかについて協議し、総会をやることに決定した。

昭49・8・7 第一回総会準備委員会、総会の案内状の発送、新聞広告などについて協議、総会次第についても話し合う。

昭49・8・17 第二回総会準備委員会、規約改正、役員改選の委員を作ります作業を始めることになりました。

昭49・8・23 同窓会規約改正委員会、原案について委員で審議。

昭49・8・29 役員選出委員会、会長候補選出。

昭49・9・6 役員選出委員会、副会長、幹事長、副幹事長を選出。幹事選出母体について話し合う。

昭49・9・13 規約改正委員会、原案完成。

昭49・9・20 幹事候補の選出。

昭49・9・22 三役会。

昭49・10・19 総会。十四時より北高北原館で開催。出席者63名、会則変更承認、新役員選出、記念講演 深沢嘉一氏(三回卒、広島大学放射能医学研究所員)。

昭49・11・12 三役会。

日産自動車支部

支部長 袴田良夫

北嶺会々報の創刊を心からお慶び致します。卒業後は、兎角疎遠になりがちですので、会報により母校や会員の動静を知り得ることは、懐しくもあり、有意義な事であり、今後の充実発展を祈念してやみません。

さて、当支部は、現在百名を超える会員を抱える大世帯で、構成は、一期生の佐々、原間の大先輩を筆頭に昭和一〇年、二〇年代卒が二名、三〇年代卒が三名、四〇年代卒が四名、五〇年代卒が三名です。

ご承知の如く当工場は、製紙で名高い岳南地区にあつて異色の存在ともいえる自動車製造工場で、従業員は四三〇〇名を数え、仕事

ルをくぐるといった感じでした。又昔日の面影が失われるのは何か淋しさを感じますが、校舎や施設も非常に立派となり、母校の発展を目の前に見て、大変嬉しく

思いました。そしてこのように他に誇りうる立派な環境の中から、社会に有能な人材が多数輩立って欲しいと思つた次第です。

藤倉電線支部 四百会

会長 高橋英二

当支部は昭三四年頃から急速に増加した若い同窓生の強い要望で、それまでくすぶっていた支部の結成の機運に火がつき、昭三八年に結成実現の運びになったのである。支部名の「四〇〇会」といういささか奇異な感じの名も、その人達の発想になるもので、県下高校の中で最初に公認四〇〇米トラックを持ち得た誇りと喜びを、いつまでも持ち続けたいという願いと、すべての面で他に先んじたいという積極的な気構えを示す。その現われが、夏の風物詩の一つといわれる高校野球で、北高の出場する所に、影の形に添うように、欠かすことなく登場するエンジに白く「四〇〇会」と染め抜いた支部

陸上競技部後援会支部

支部長 渡辺文夫

陸上競技部後援会が正式に発足したのは、四十二年頃であつたと思つています。当時はOB会として旧交を深めることが第一でした。OBの確認、名簿の作成を行ない、会費の一部を北高陸上競技部へ催しながら援助して来ました。特に四十八年十二月の全国駅伝出場時は、同窓会の皆様が多大の支援をいただき、これまでにない援助ができました。

富士宮市役所支部

支部長 佐野卓司

発足したばかりで、まだ十分同窓生を把握していませんので、市役所、市立総合病院、消防署などを合せると百人近い数になるのではなにか。これは全職員の十割にも当たる。

戦争中の商業学校、工業学校といわれた頃の卒業生はほとんど部長、課長の位置にあり、実業高校、県立高校時代の卒業生でも係長、課長補佐といった役付の人が輩出している。みな富士宮市の行政という分野で微力ではあるが頑張っている。

静岡支部

支部長 明石秀男

四九年度総会終了後一期生の有志六名が静岡市に集まり、今度静岡支部が新たに発足する事になった。経過報告と今後の運営について話し合った結果、名簿の作成を急ぐという事になり、清水地区に名簿の整理をお願い致しました。

何としても受持区域が静岡市以西大阪、九州迄となつておりともすぐには出来ません。とりあえず静岡市、清水市、静岡県内(浜

日本軽金属支部

支部長 佐野敦則

まず日本軽金属の紹介からさせていただきますと、当社の事業所は東京本社、清水蒲原、新潟、苫小牧、船橋

小学校部

支部長 岩間茂芳

北嶺会の職場支部の一つとして、小学校部があり、その係をおおせつたていですが、恐らく大勢の役員の中でも、母校からの最短距離に居住しているものと自負しています。そんな関係から係が来たのではないでしょう。

市内をはじめ富士まで含めて、小中学校教員の北嶺会員は恐らく五十人は下らないと思つています。名簿作りも思うに任せず実数をとりたてたいと申しわけなく思つています。

一期生から始つてかなり

吉原支部

支部長 遠藤富夫

北高同窓会「北嶺会」が発足しその一部吉原支部が新しく誕生しました。

先輩諸兄の多数おられる中から支部長を委任されまされた。未熟者でありますので精意努力いたす所存でありますので諸兄の適切なご指導をお願い申上ります。

さて支部としては何を行つたら良いか、それは相互の親睦を計ることが第一だと思つています。しかし未だその名簿の整理も出来ておりませんので六月一日の総会まではと思つている概要を調

かつては、当社に勤務する北高同窓生は蒲原工場に集中しており、年二回の懇親会を行ない、規約も持つた、まとまりのあるグループとして活動を行なつていたが、次第に前記各事業所に分散したために相当の期間自然休会の状態にあつては、現在とり敢えず、蒲原工場のみを対象にして、支部会員の再編成(約五十名)を行なつては、これを全日軽に拡大して北嶺会の情報伝達等の作業から「職域支部」としてのまとまりを固めてゆくことを考えている。

査し始めましたが調査の対照となる吉原地区の事業場で大昭和製紙・日産自動車・富士市役所と独立支部を構成してあるので仲々進みません。当地区に在任の諸氏の緊密な連絡をお願いいたしますので積極的なご協力をお願いします。

尚吉原支部役員として左記の諸兄をお願いいたします。

代議員 鈴木 隆弘
評議員 加藤 喜平
浅見 剛司

北高各部紹介

野球部

- 部長 森川 晃
- 副部長 坂本 佐一
- 監督 大石 義春
- 主将 遠藤 盛正

打順	氏名	学年
1	杉村 和彦	2
2	山下 勝理	3
3	高野 財光	3
4	野毛 隆	3
5	窪田 忠良	3
6	高野 錦太郎	2
7	川上 明彦	3
8	勝呂 高博	3
9	勝呂 計正	3
補	遠藤 盛正	3
	篠原 主司	3
	大石 守	3
	田村 武司	3
	上林 謙二	3
	望月 一敏	2

故望月軍四郎氏の御英断で広大な敷地を持つ本校は運動部の施設が大変恵まれ野球部も照明のついた専用

支那前の林に、小級鶏の群れが遊び、山鳩が飛んできて鳴いているのを時々見かけます。

大きく育った桜や銀杏や唐松が北高三十八年の歴史を雄弁に物語っています。

このたび八千人を擁する同窓会が装も新たに北嶺会と改称し、再出発されますことは誠に同慶に存じます。富士を象徴して謳われる教育の理想は数多く見られます。本校の北嶺精神の志向するところは、大方の卒業生各位はご理解いただいている事と存じますが一言ふれさせていただきます。

庭球部

グラウンドで元氣一杯毎日練習に励んでいます。本年は多くの一年生の加入で六十名に近い大世帯となり、練習にも一段と熱が入って来ている現状です。

約十年前の甲子園出場以来毎年好チームを作り上げて来ている実績を上げています。昨年度の準決勝進出に続いて、秋の新人戦では東部三位県大会出場、今年の春は東部三位県大会出場し掛川西高に五対一で敗れたはしたけれど、これから本番の夏の大会には初優勝をめざして、全員が血みどろの練習を続けている現状であります。

幸い後援会が強力で、何れとなく野球部のみならず、部員の面倒を見てくれておられますので何となく、又毎日の放課後の練習に於いてさえも、毎日殆んど欠かさず何十人という人が見学に見えられて、選手達に激励の声を投げかけられるのを見てみると、

「北嶺を仰いでその視線をゆくりと返して自分の足もとに結びつける。そしてまた爪先から静かに山肌をたどって頂きに至る。」

北高の近況

教頭 渥美 辰雄

つまり北嶺を向う側に一幅の絵として眺めることであって、自分と結びつけることである。もっといえは自分のなかに北嶺を築いていくこ

相撲部

小林 末吉

創立以来四年目を迎えるに至り、名実ともにその伝統も着々とできつつあります。創立二年にして早くも

本校軟式庭球部は、非常に長い歴史を持っています。が、その中でも昭和三十年に現在の六面コートが完成してからは、県下の高校の中でも極めて優秀な成績をあげています。インターハイの団体戦では、県代表として三回出場、個人戦でも全国のランキング選手になるなどの活躍をしてきています。

さて、過去五年間を振り返ってみますと、インターハイには四十六・八・九年と出場しており、四十八年には個人戦で三十二位内に入る成績を残し、東海大会においても四十六年には団体優勝をしております。

このような優秀な先輩たちの指導を受けて、今年の部員達も大いに練習に励み六月に行なわれるインターハイ県予選をなんとか通過して、その出場権を得よう

とである「堅実にして、しかも高さを誇らぬ偉大な北嶺に新しいロマンを求め、不断、不屈の研鑽を誓おうとするものであります。」

卓球部

最近コンスタントに県下

において上位レベルを保持している。過去五年間連続ベスト8東部においてベスト4をつづけている。優勝回数も個人を含めて、次の通りである。県優勝8回、東部優勝10回等この数年における活躍はめざましいものがある。全国大会出場個人はシングルスに8名、ダブルス2組、団体1回と県下でも有数の名門校となりつつあります。

しかしながら最近では、新入生に強い選手がおらず、苦戦しながら伝統の灯を保っている状態です。将来どのように強化していくかが課題となるでしょう。県の状勢を見まして、私立校に中学の強い選手が集まり、公立校の弱体が目出っております。今年度も東部

予選は、ほぼ完了しました。が、シングルス準決勝進出者一名、その他県出場獲得者五名、ダブルスはベスト8に二組、団体戦は現在決勝リーグに進出決定、上記の成績は、部員の必死の努力によってなされたもので、今後とも気力による試合態度等で、なんとか伝統を保ちつつ、がんばっていく決意を固めています。

予選は、ほぼ完了しました。が、シングルス準決勝進出者一名、その他県出場獲得者五名、ダブルスはベスト8に二組、団体戦は現在決勝リーグに進出決定、上記の成績は、部員の必死の努力によってなされたもので、今後とも気力による試合態度等で、なんとか伝統を保ちつつ、がんばっていく決意を固めています。

柔道部

昭和四十九年五月三日

於 三島南高 静岡県柔道新人大会東部地区予選

- 第一部(ベストメンバー) 第二位
- 第二部(一年生) ベスト8
- 昭和四十九年二月二十四日 同県大会
- 第一部 ベスト8
- 第二部 一回戦にて敗退
- 昭和四十九年四月二十八日 県スポーツ祭東部予選
- 第二位
- 昭和四十九年五月十九日 スポーツ祭県大会第三位
- 昭和四十九年六月二日 全国高校総体県予選兼東海総体県予選(団体)

を意欲させられ、進路目標正や個性の確立以前の問題として、学びの意欲を見失いがちな傾向の生徒がないとはいきません。

この間北高伝統の卒業生との交流もあり、郷研OB会などもつくって色々と協力してくれています。これら諸条件の下で、これまで寺院調査、講、石造物、風穴、発掘、古文書などを行なってきました。これらの集約としての民俗調査を主として行っています。富士川流域から富士宮、富士吉原の民俗調査を行って来ます。これは、折につけ調査報告書等も発行したり又、岳南朝日新聞等にも報じられて、広く世人にも知っていただいております。今後、こうした北高独自の良き方策の下で、郷土の研究の一端を担って行っていくべきかと思っております。

バトミントン部

現三年生は、一年の時から基礎体力トレーニングに工夫を加えて三年間、敏捷性、持久力、柔軟性の三要素を合わせもつ体力強化に努めてきた。それもあってか、今年の成績がよいのがうれしなことである。OBの応援指導、面見のよさは定評のあるところで、躍進の大きな力となっている。

過去の、全国大会出場、団体一回、個人三回、シングルスで九位に入ったこともある。現在部員数三十余、気力に満ちた練習にうちこんでいる。

今年成績

- 一、県新人戦(二月二十三日)
- 二年ダブルス 優勝
- 二年シングルス 三位
- 池田光宏 優勝
- 鈴木達雄 二位
- 一年シングルス 二位
- 山本満昭 二位
- 一、インターハイ東部地区予選(五月三、四日)

馬飼野弘行氏

昭和二十九年 県立第一回卒業生

在学中父親が病魔におかされ経済的に恵まれなかつたが、持前の強い意志によって学業に、又陸上競技部の長距離選手として活躍されました。特に伝統を誇る職伝の草創はこの頃です。当時の奨学金の交付や教職員、級友の暖い支援を忘れず少しづつ蓄えたものを不惑に達したのを機会に学校に寄付されました。ここに感謝の意を表わすとともに、氏の益々のご活躍をお祈り致します。

陸上競技部

現在部員は五十四名です

この数年充分とはいえませんが、今年は見立たん生徒もなく、総合力でも少落ちています。特に駅伝は有力選手が卒業したので全国駅伝などは望めそうもありません。しかし新入生に素質のあるのがいるのでまた強力なチームを作りた

と思います。あまり勝負にこだわらず楽しい部活動が続けて行きたいと考ます。さいわい部のムードもよく本気で陸上に取り組んでるので必ず活躍できる時が来ると思っております。顧問・塩谷孝文

「北嶺を仰いでその視線をゆくりと返して自分の足もとに結びつける。そしてまた爪先から静かに山肌をたどって頂きに至る。」

「北嶺を仰いでその視線をゆくりと返して自分の足もとに結びつける。そしてまた爪先から静かに山肌をたどって頂きに至る。」

大学合格者一覽表

(最近3カ年) (過年度卒業生を含む)

Table with columns for school names and years (47, 48, 49 degrees) for various universities and colleges.

弓道部

部創立八年目になり、インターハイ一回、東海四県大会三回出場の結果を残し、今年度の成績

バスケット部

過去五年間の成績は、昭和四十六年度新人戦、スポーツ祭、インターハイ、各東部地区予選会で優勝、昭和四十七年度新人戦、スポーツ祭、東部地区予選会第三位、昭和四十八年度長身選手会新人戦東部地区大会で優勝し東海大会第二位

現在部員は三年四名、二年九名、一年十名で毎日練習にはげんでおりますが、今年度はシーズンに入り故障者が続出したためチームがまとまらないうちに大会をむかえたため成績に終ってしまいました。

現在二年生、一年生は長身者(一八〇cm以上が三名)がそろい、この者たちが順調にのびてくれれば来年はかなりの好成績をおさめることができると思います。

なつかしの 恩師 (Portrait of a man)

小沢 靖 (一三・四二二・四) 富士宮市青木六四九 電話 七〇六八二

篠原 渡 (二〇・一〇二・三) 富士宮市元城町七一六 電話 七三七一四

佐山雄祐 (一四・四二九・三) 富士宮市豊町七二二 電話 六一三二二

山中鉄也 (二〇・一〇三・三) 富士宮市中央町三の七 電話 四一三六九七

山田貞蔵 (一七・四二六・九) 富士宮市宮町一四番一 電話 六一三九五

笹原隆次郎 (一三・四二八・四) 富士宮市天間五四五の二 電話 〇五五七二二七八〇

塩川建一 (二八・四一四・一) 富士宮市黒田一四四五 電話 七二七四三

里見浩太郎 テレビ「水戸黄門」でなじみの「助さん」は本校創立第二期卒業生です

あとがき 広報部として具体的な動きを始めたのは五月一日でした

その為には各支部の動き等積極的に原稿をお寄せ願います